

那 覇 市 教 育 委 員 会 会 議 録

平成22年度第7回（定例会）

署名人 金城真徳

委員長 田端温代

開催日時 平成22年7月1日（木） 開会 午前10時00分
閉会 午前11時50分

開催場所 那覇市教育委員会 第1会議室

出席委員 田端温代委員長、有銘寛之委員、金城真徳委員
城間勝委員、城間幹子教育長

議 案

- 第11号 教育事務点検評価の内部評価について
- 第12号 那覇市教育事務点検評価委員会への諮問について

出席職員

新城和範生涯学習部長、盛島明秀学校教育部長、佐久川馨生涯学習部副部長
屋良朝秀学校教育部副部長、東恩納隆栄総務課長、前原信喜中央公民館館長
手登根朗学校給食センター所長、仲田恵司学校給食課長、宮内勇人生涯学習課長
伊良皆宜俣市民スポーツ課長、池間生子教育研究所長、古塚達朗文化財課長
真玉橋晃学校教育課長、森田浩次学務課長、具志真孝中央図書館長、上原秀人総合青少年課長
我謝幸男博物館長、伊禮弘匡総務課副参事、神谷乗治総合青少年課副参事
高里浩博物館主幹、富名腰史之こども政策課主査、當間千明総務課主査

会議録作成 仲間稔総務課主査

- 田端委員長 ただいまから平成22年度第7回教育委員会会議定例会を開催いたします。
本日の会議録署名は金城委員にお願いいたします。
では、議案第11号「教育事務点検評価の内部評価について」説明をお願いします。
- 新城部長 提案
- 東恩納課長 説明
- 當間主査 説明
- 田端委員長 この件につきまして、まず、1ページの対象事業(1)(2)について、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。
- 城間委員 1ページの対象事業がありますが、実施本部会議でピックアップしてこの20の事業を挙げていますが、それぞれの課からこれについて点検したいということなのか。それとも前年からのつなぎで行っているのか。抽出時の観点をお聞きしたい。
- 東恩納課長 外部評価委員の皆さんからの昨年のアンケートで、次はどの事業を評価したいですか、ということで半分くらいは選んでいます。あとは教育委員会事務局サイドでこの事業を評価してほしいということで、双方をミックスしまして20事業に絞っています。あまり数が多いと評価する側も大変なので、これぐらいが適当だろうということで行っております。
- 城間委員 私が3月まで勤めていました真和志中学校ですが、教育相談支援事業というのがあり、素晴らしい教育相談支援員がいました。ぜひ、那覇市教育委員会がこのような事業を行っているということを外部に発信していただきたい。サポーター派遣事業も素晴らしいですが、教育相談支援員も他の学校でも真和志中に劣らず、素晴らしい活動をしていると思うので、いい事業はできるだけ外部に発信していただきたい。
- 有銘委員 5ページの「有効性を点検評価するための情報」で、指標はどうしても主観的にならざるを得ないので、増加率でないといけないのかというのは別として、数値ですが、前年が152で本年が10になって、本年実績はマイナスとなっています。3ページになると、前年実績は26.9で本年目標は27、本年実績は27.5となっていますが、5ページの4の指標は本年実績が-56.5%となって、これはおそらく指標としては意味を成していない。算式が間違っていないでしょうか。5ページのこの指標は自ら厳しく見られている指標ではありますが、数値がイレギュラーになっているのではないのでしょうか。
- 東恩納課長 この数値につきましては、この通りであります。6ページの今後の展開に説明していますが、元々この事業は委託事業として実施しています。一期目の委託事業が20年度で終わって、この点検評価は21年度の事業を評価します。21年度から委託先が新しいNPO団体に代わったということで、前年実績で152%となっておりますが、21年度は目標として10%アップくらいを目標に設定しています。前の委託先と新しく21年度から委託を受けた団体の方は得意分野が違っていたりしまして、実績は利用数で見るとかなり落ちたということはありません。初年度なのでその辺も勘案して捉えていかないといけないということで、21年度の評価は2となっております。

比率がかなりアップダウンしておりますので、指標については工夫ができないかという感じはあります。

新城部長　このことについて、定期的に活動していたヒップホップの団体を抱えていた委託業者が代わったことにより、利用者が極端に減ったということです。この成果指標の考え方ですが、他のシートにも出てきますが、ケースによってはなかなか難しいところがあります。

田端委員長　感想ですが、この評価で見れば仕分けた方がいいと思いますが、社会的に望む、要求されることを考えると、この事業はあった方がいいと思います。何年間かこの事業の流れを見てまして、この事業がスタートした時の理念が、発注する側も受けた側も少し欠落していると思う。次年度はもう少し初心に帰って、せっかく与えられたスペースがあり、場所があるわけですから、若者、子ども達にそこが有効利用できるように、予算をつけた人の心意気みたいなものを感じとってやっていくべきであると思いました。

新城部長　おっしゃるとおりです。妥当性というのは、この事業の意味ですが、評価は4です。意義ある事業ですが運営の部分で足りないところがありますので、おっしゃるとおり次年度以降は考えなくてはいけないと思います。

田端委員長　続きます、(3) (4) について、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

城間委員　社会教育指導員が事業を企画し実施して、そこに参加した人たちがニーズや知識を身につけて、その人たちがまちづくりに参加していく。自主参加、サークルなどを作っているいろんなボランティアをやっていく。ここで学んだ人たちの知識がどう評価されるか、どう生かされているかということをもしわかれば教えていただきたい。

宮内課長　公民館でサークル活動をされている団体が40ほどありますが、そのうち多くは公民館で学んだ方々がそのままサークルを作っているという状況です。社会教育指導員でいいますと、延べ人数で約300名、実人数でいいますと100名ほどになります。その方々は終わった後、地域でボランティアなどされている方もいます。

田端委員長　では私から宿題をお願いします。今、コミュニティ事業の一本化ということで市の行政が大きく変わろうとしていますが、会合の中で協働推進課と一本化した方がいいという声を聞きます。是非これまで社会教育、公民館で果たしてきた役割などを私たちに伝えていただいて、たとえ一本化されるとしても社会教育に関するもろもろができていれば、新しいシステムに移行できるかどうかということを生涯学習課や中央公民館の方から示していただければいいと思います。このままでいきますと教育委員の皆さんが社会教育、生涯学習であるとか、そのことを知らないままに私たちは合流してしまうことになってしまいます。是非少しの時間を作っていただき、生涯学習課の皆さん、公民館の皆さんでもって私どもにレクチャー、プレゼンでもって、そのすばらしさを伝えていただき、私たちはいろいろ考えながら判断したり認めていくような方向で行きたいと思います。

- 前原館長 公民館では40あまりのサークル団体があり、7館の利用団体連絡会があります。既に利用連絡会の中では各サークルの活動だけにとどまらず、地域社会に協力的に学習の効果として協力できるような活動を行っております。
- 田端委員長 続きまして、(5)について、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。よろしいでしょうか。続きまして、(6)について、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。
- 有銘委員 先ほどの5ページの件と同じで、全体数が前年度数から下がったので指標がマイナスになっている。マイナスの絶対値から本年目標を設定するので、13ページと5ページは同じだと思う。違うのは13ページは前年実績を下回ったという有効性の情報を示しておいて、点検評価で最高評価の4をしている。5ページでは半減したので有効性は2の評価だったのですが、こちらでは前年数を割っていて有効性は高いですという形だと数字ではマイナスでプラスの評価をするのは内容でフォローしないといけないと思いますが、14ページの文書でしかフォローできないと思うのですが、有効性を読んでみると事実の説明になっている。例えば8ページの有効性を見ていただきたい。現場の声として数字には出てこないがこういう声がありましたというようなものが14ページにあれば数値的には下がっているがプラスの評価にした説明ができると思う。今の状態だと自分たちで有効性の指標の増減率をマイナスとしておいて、なぜプラスの評価ができるのかということになってしまう。自ら選んだ指標の取扱いと自ら選んだ評価がある程度結果を連動していかないと違うことをやっているように見られて、今後の展開に本当に実効性があるのかということまで話が進んでしまう。13ページの有効性に関して再考されてはいかがかという意見です。
- 東恩納課長 14ページの効率性の欄ですが、石嶺プールの天井修繕と庭球場のコート改修のため4ヶ月ほど閉場したため、利用人数が減っていますが、これを除くと利用者数としては基本的には伸びていたということで有効性も実績としてはマイナスだが、閉めていた期間を勘案すると効果あるだろうということで評価しています。
- 有銘委員 もしそうであれば14ページの有効性でも同じような説明を入れないと見る側にとってはそういうふうには受け取ってもらえない可能性があります。くどいようですが同じような説明をした方がいいと思います。
- 田端委員長 続きまして、(7)について、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。では私の方から質問ですが、これは預かり保育のことですか。
- 東恩納課長 預かり保育ではなく、4歳児の2年保育です。
- 田端委員長 続きまして、(8)(9)について、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。では私の方から質問ですが、給食センター運営委員会が前年は外部評価がCだったと思いますが、改善についてお聞かせ下さい。
- 東恩納課長 昨年度は内部評価でB、外部評価でC評価。昨年度は評価シートで有効性を図る指標で給食の残量を評価指標に用いて、今回は給食法の改正がありまして、食育指導の方に改正されたため運営委員会のあり方自体を食育指導の方へシフトした形で今回

は食育指導を有効性を点検評価するための情報に使うということで変更しています。運営委員会のあり方につきましても単に予算決算をやる委員会かというご指摘もありましたので、実際にはあらゆる運営に対することをやっておりますので、そういった説明も行っております。今年度は法の改正もあり、食育指導で評価を説明したいということです。それから評価としまして、3が付いていますが、3も良い評価であります。全部3ということは平均以上の評価をつけ総合評価もBとなって、Bも悪い評価ではなく良い評価です。

田端委員長 続きます、(10)(11)について、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。では私の方から質問ですが、保護世帯が多い学校、そうでない学校、それによって学力に差が有るかどうかという調査は行っていますか。

盛島部長 学校ごとの数字は把握しております。学力との比較については出しておりません。ただし、全国的なデータでは明らかに学力の差はあるという指摘はあります。

田端委員長 いくら程度の援助をされているのでしょうか。

森田課長 小学校では5万4千円、中学校では2万6千円となっております。

田端委員長 続きます、(12)から(15)について、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

金城委員 生徒サポーター派遣事業で、生徒サポーターの人選についてどのように選んでいるのか。地域でこの人が妥当なサポーターであるか否かよく議論上がります。人間性などもご覧になっているのかどうか。定年した方々を入れたいが、なかなか探せない。本当は若手がほしいが少ない手当てで生活ができないということで若手が来ることができない。そういったことから、もう少し手当てを上げれば若手のサポーターも対応できると思いますが。

城間教育長 人選の件ですが、学校長が地域の実態を良く知っていますし、地域の方々と相談しながら学校長から推薦していただき、こちらは承認、認定する手順となっております。ですから教育委員会でこの人はこうだからカットということはできず、それ以前に学校長と相談ということはできると思いますが、学校長推薦者を認定していく形になっています。もう一件の手当ての件ですが、大きな課題でありまして、生活ができる程度というのは今の状況では厳しいです。

金城委員 放課後子ども教室推進事業のことでお聞きします。教育委員会で学校ごとにこういった推進事業を行っていますが、那覇市の市民協働推進課が進めるモデル事業がありますが、これと中身が少し違うが全体的には同じような感じがしたので、一括でできればと感じました。横の連携といいますか、教育委員会と総合青少年課、市民協働推進課との連携が取れていない感じがしました。

新城部長 市全体で地域のコミュニティ、市のあらゆる関係する団体がどのような形で連携するか今後の課題となっております。これは一つの団体だけで推進する事業ではありません。おっしゃるとおり今後の課題になってくると思います。

城間教育長 放課後子ども教室推進事業は事業の主旨が那覇市のコミュニティ事業とは違って

いる。活動の一部をここで担うことはあることはあるかもしれないが、元々事業のスタートが違うので一つにすることはできないです。コミュニティ事業が活動として活用する、地域の方々のサポートを得ることは可能ですが、事業そのものは国も関わっている事業ですので、一緒にすることは現時点ではできないと思います。

田端委員長 放課後子ども教室推進事業の事業概要で、「36 校区中、子ども教室未実施校区が10 校区あります」とありますが、できない理由をお聞きしたい。

盛島部長 指導者を確保できないこと。小学生は教室を設置したら希望者は必ずいると思いますが、指導者が確保できていないというのが現状です。

田端委員長 指導者の確保に関して、学校が努力するのか、社会教育あたりががんばるのでしょうか。どちらでしょうか。

盛島部長 両方ががんばらなければいけないと思います。

田端委員長 社会教育の公民館と学校との連携はできていると解釈してよろしいでしょうか。

城間教育長 その役割を担うために運営の面などの調整をしてくれたりするコーディネーターという方が配置されるようになりました。

城間委員 学校によっては温度差があり、一生懸命探そうとする管理者もいれば、それどころではない学校もあると思いますので、こういうすばらしい人材がいますという情報を発信して行ってほしいと思います。

盛島部長 先ほど金城委員からありました件について、市民目線でわかりにくいというのがありました。わかりやすい仕事の一元化は今後検討していく必要があると思います。

田端委員長 続きまして、(16)について、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。34 ページの④今後の展開で、実施計画による予算要求を行っていくという明快な指標があり、とてもありがたいと思います。

城間教育長 全国学力調査が抽出であるならば、那覇市の学力はどこで見るといった時に、県も達成度テストにシフトしていく情報を得ていますので、那覇市としては新たに子ども達の学力を見る、図る調査をシフトしていかなければという案から、今後の展開ということになっております。

田端委員長 続きまして、(17)から(20)について、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

金城委員 浦添前田の区画整理事業でたくさんの墓が移動させられて、発掘が進んでいますが、浦添の方でも文化財発掘調査を行っていますが、那覇市でも一部やるのですか。

新城部長 今ご指摘の点は浦添市の地域内にある発掘調査について、那覇市教育委員会は関わっているかということですか。

古塚課長 国際センター線道路整備事業につきましては、浦添市から依頼を受けた事業でありまして、その内、那覇地域の部分については受託して調査を行っています。したがって浦添市内は浦添市教育委員会が、那覇市内については那覇市教育委員会が行っております。

金城委員 私どもの先祖の墓もそこに入っているので取り出してみたら、シナ年号で1800

年辺りのが出てきた。那覇市でもそういった説明会があればいいと思います。

有銘委員 私は外部評価委員の立場から、21ページのコンピューターの活用の件で、妥当性のとおりに行くと、事業概要の方で当初の数値目標として、教員一人一台という目標と児童生徒3.6人あたり1台の教育用パソコンの二つの事業概要があって、3と4の効率性、有効性は今のところ教員一人あたりパソコンの消費率を成果指標としているのでこれでいいのかと思ったが、もう一度、妥当性の上位施策を見ると、子どもの視点に立った環境づくりとあるので、教員一人一台という指標も大事ではあるが、3.6人に1台という指標も捨てがたい。その場合、3、4の指標として教員一人あたりのパソコンをあえて指標として持ってきた理由を聞かれると思います。

真玉橋課長 コンピューターの活用については、コンピュータールームの小中学校の整備ということで行っていこうと考えています。地デジの大型のテレビを各学級ごとに入れていまして、教育のソフトをそのまま持ち込んで教室の中で使いながらコンピューターを活用しようということでの事業としていきますので、現状としましてはコンピュータールームの台数を確保し、整備することによって、より効果的なコンピューターソフトと教材ソフトを使つての授業の展開ができると思っています。

有銘委員 加えて申しますが、妥当性の⑥ですが、児童にとっての情報活用能力の向上、ポイントポイントで授業、生徒とそれが主語になってきてしまうと、どうしても指標としては3.6人の方が優位になってしまう懸念はあったので、それよりも前に教員も含めて周辺整備がまず先ですよ、という認識をしていますので、もし外部評価委員からこのようなご指摘がありましたら察してください。

城間教育長 児童という主語があちこちにありましたが、児童生徒は使えるようになるというのは3.6人あたり1台とは目標値の向きが違ふと自分自身は捉えています。

田端委員長 指標を考えた場合に、この情報の中に少し欠落した説明の部分があったのかもしれないね。いかがでしょうか。

盛島部長 今、委員からご指摘がありましたように、主語がどこであるかというのは大事なことです。表記を工夫しないといけないと思います。

田端委員長 よろしいでしょうか。
では、議案第11号「教育事務点検評価の内部評価について」原案どおり決定してよろしいですか。

全 員 異議なし

田端委員長 議案第11号「教育事務点検評価の内部評価について」議決確定します。続きまして議案第12号「那覇市教育事務点検評価委員会への諮問について」説明をお願いします。

新城部長 提案説明

田端委員長 この件につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。
諮問を行うのは何日の予定になっていますか。

東恩納課長 諮問日は外部評価委員会の開催される7月7日の2時から開催されますので、その

冒頭で諮問のセレモニーを行いたいと思います。場所はこちらで行います。

田端委員長 では、議案第12号「那覇市教育事務点検評価委員会への諮問について」原案どおり決定してよろしいですか。

全 員 異議なし

田端委員長 議案第12号「那覇市教育事務点検評価委員会への諮問について」議決確定します。以上をもちまして、平成22年度第7回教育委員会会議を終了します。